様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２３２０１３４

研究課題名（和文）備中国新見荘における総合的復原研究

研究課題名（英文）Comprehensive Restoration Research on Bicchuno Kuni Niiminosho

研究代表者
海老澤　衷（EBISAWA, TADASHI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：６０１９４０１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　13,000,000円、（間接経費）　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：　備中国新見荘は岡山県新見市の高梁川上流域に存在した東寺領の荘園で、東寺百合文書等、豊富な中世史料が残存するため、中世荘園を研究する宝庫である。
　今回、広大な荘域全体にわたって、共同研究による総合的な復原研究を実現することができた。その過程で、荘園調査全般に役立つＧＩＳソフト「多層荘園記録システム」の開発を進め、これを基盤にして、『中世荘園の環境・構造と地域社会』（勉誠出版、2014年）などにその成果をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：Bicchuno Kuni Niiminosho is a Toji domain manor that existed in the Takahashi River basin in Niimi city Okayama prefecture.Containing a plethora of extant medieval documents, (such as the Toji hyakugo monjo), it is a veritable treasure house for the study of medieval manors. For this research, we were able to engage in a collaborative and comprehensive restoration study on the whole of this vast manor area. In the process of doing so, we progressed in the development of the GIS software "Multi-Layered Manor Record System", which is useful for manor surveys overall. We also presented our results in, for example, "Chusei syoen no kankyo, kozo to chiiki syakai" (Bensei Syuppan, 2014).

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：土地台帳　切絵図　たたら生産　水田農耕　備中国新見荘　総合的復原研究　多層荘園記録システム　水利

１．研究開始当初の背景

(1)日本中世史の概説書や通史の室町期の項では、新見荘関連の記述は枚挙に暇がない。このように評価が定まるなかで、1980 年代、東京大学名誉教授の石井進氏と地元研究者の竹本豊重氏によって景観論的な視点から鮮やかな中世村落像が示され、荘園研究のモデルとしての地位が与えられた。

(2)東寺に残された関係史料は厖大にあり、それらを十分に調査検討して荘園像が形成されたとは言い難い。現地の詳細な図化作業も今後に残されており、デジタルデータ化が著しい今日、学際的な共同研究により新たな前進を図らなければならない。

２．研究の目的

(1)地元の研究者竹本豊重氏は高齢ながら壮健であり、今でも広い荘域の全体について該博な記憶力によって荘園時代の地名を現況に比定している。今回明らかに出来ることは、東寺文書から拾える厖大な中世地名と竹本氏を中心とする現地の古老の記憶により、この地において精度の高い中世村落景観の復原を行うことにある。

(2)復原のツールとして東京大学史料編纂所が伯耆国東郷荘研究等で開発しつつある方法を用いて歴史地名情報を軸として復原作業を進めたい。これには東京大学史料編纂所の高橋敏子氏、井上聡氏のサポートが必要となる。従来、このような調査は図化作業に手間取ったが、GPS を駆使した「多層荘園記録システム」により、4 年間で新見市の全域におよぶ新見荘の全領域の現況の記録と復原研究を行う。

３．研究の方法

(1)備中国新見荘に関する史料を収集・整理し、中世地名のデータベース化を図る。

(a)『岡山県史　第 20 巻　家わけ史料』、(岡山県県史編纂委員会、1986 年)、『新見市史史料編』(新見市史編纂委員会、1990 年）等を参照して資料目録を作成。

(b)早稲田大学戸山図書館に架蔵されている東寺百合文書の写真帳により、新見荘関連史料を抽出し、従来の活字史料との照合を行う。

(c)東京大学史料編纂所において写真帳・影写本により関連史料の収集を行う。

(d)京都府立総合資料館にて特に東寺百合文書中のク函に収められた鎌倉期の検注帳類などの原本校合を行う。

(e)東寺宝物館にて関連史料の収集を行う。

(2)中世地名の照合

(a)新見市役所および関連の行政機関において、ベースマップ（1:5000～1:2000）となる地形図と、小字表あるいは小字地図を入手する。

(b)ベースマップをデジタル化し、地名のレイヤーを作成する。

(3)金石文調査

(a)新見荘域の中世の紀年銘を有する石造文化財を調査し、写真撮影等を行い、「多層荘園記録システム」のレイヤー作成を行う。

(b)寺院・神社に付随する石塔や鳥居など調査し、建立年次などの推定を行い、新見荘形成史とのパラレルな関係を明らかにする。

(4)古代・近世遺跡史料調査

(a)総合的な復原調査を進めるにあたって、古代史、近世史にも目配りし、新見荘という地域を重層的に復原する。地域にとらわれない広い視野から荘園の腑分けを行う。

(b)近世の村落関係史料を収集し、検地帳・村明細帳などの把握に努める。

(5)「多層荘園記録システム」の検討と機能拡充

(a)東京大学史料編纂所が伯耆国東郷荘や薩摩国日置北郷をフィールドとして開発してきた方法に「多層荘園記録システム」が適応できるよう、近世の村落絵図などの収集を行う。

(b)「多層荘園記録システム」が厖大な中世史料を有し、また鎌倉期の検注帳によって多数の中世地名が存在する新見荘において十分に機能するか否かを検討し、必要な場合には新たな機能を付与して、対応可能なシステムにする。

４．研究成果

(1)2013 年 6 月 17 日、戸山キャンパス第 10 会議室において、海老澤が属する早稲田大学総合人文科学研究センターと早稲田大学高等研究所の共催シンポジウムとして「日本中世の荘園空間と水利」を開催した。備中国新見荘の水利状況と様々な地名データを照合することによって水田農耕社会の実態を明らかにし、東寺領荘園の実態に迫るものであった。7 月 13 日には早稲田大学小野記念講堂において、シンポジウム「中世村落の総合的復原研究―備中国新見荘の歴史と水利―」を開催した。前回と同様、総合人文科学研究センターと高等研究所の共催で、基調報告「多層荘園記録システムの構築に向けて」（海老澤）の後、第Ⅰ部「新見荘調査の成果」として、似鳥雄一、貫井裕恵、大澤泉、宮﨑肇、川戸貴史、清水克行が報告を行った。第Ⅱ部「新見荘研究の現在」では、酒井紀美、高橋敏子、高橋傑、辰田芳雄、伊藤俊一が報告。第Ⅲ部ではパネルディスカッション形式で「新見荘の未来―共同研究とたたらの伝承」のテーマのもと、井上聡、清水亮、白石祐司、藤井勲が報告し、討論を行った。この日のディスカッションは本研究の締めくくりとなるもので、研究成果を総浚いしたものである。ディスカッション終了後、次年度に勉誠出版より 2 冊の書籍を刊行することが決まった。東寺に残る文献資料の分析を中心とする『中世荘園の環境・構造と地域社会―備中国新見

荘をひらく―』を 14 年 5 月に、さらに現地の水利と地名の分析を主とする『アジア遊学・中世の荘園空間と水利』を 10 月に出版することとなった。8 月からは、海老澤（早稲田大学教授）、高橋敏子（東京大学史料編纂所准教授）、清水（明治大学准教授）、酒井（茨城大学教授）による「新見荘論集委員会」を設け、論文審査の後、掲載を決定することとなった。

(2) 2013 年度に 2 回のシンポジウムを開き、多数の報告者によって成果の大枠を発信でき、また 2014 年に 2 冊の書籍にまとめ、その報告が可能となったので、目標はほぼ達成したといえる。具体的には、新見荘の上部構造研究について、①大島創「最勝光院領備中国新見荘領家職相論の再検討」、②貫井裕恵「中世後期における御影供執事役について」、③土山祐司「新見荘と寺領惣安堵―一通の御判御教書案を通じて―」、④川﨑玉幸「新見荘をめぐる大覚寺覚勝院と細川氏・安富氏」として結実した。従来知られていなかった荘園領主東寺をめぐる幕府や関係寺院との関係であり、室町期荘園制と呼ばれる制度の上層部の問題が明らかにされた。これらの研究は明治期以来の長い伝統を有するが、近年の資料デジタル化の進展とデータベースの開発によって一層精緻な研究が可能となったものである。つぎに内部構造の研究では、①川戸貴史「新見荘における代銭納の普及過程」、②久下沼譲「新見荘代官祐清の年貢収取及びその評価をめぐる再検討」、③辰田芳雄「百姓等申状・三職等注進状の収集と分析」、④似鳥雄一「下地中分後の室町期荘園―備中国新見荘地頭職・地頭方と新見氏―」があり、これらの研究も他荘園では昭和初期から進められていたが、厖大な史料が存在する新見荘にあっては 1980 年代から明らかにされはじめたもののその後停滞状態にあり、今回の共同研究により著しい進展が見られた。生産・環境の分野では①飯分徹「新見荘の漆―生産・収取・流通・分配―」、②伊藤俊一「応永～寛正年間の水干害と荘園制」があり、さらに地域社会論として①大澤泉「備中国国衙領の支配構造と新見荘」、②酒井紀美「中世の在地社会と徳政」がある。また、現地調査の成果として、高梁法務局の明治期の土地台帳からの網羅的な地名収取があり、これにより従来の地名、灌漑調査より遙かに精度の高い復原研究が可能となった。

(3)今後の方策については、web による発信が大きな課題となる。課題は大きく二つあり、一つは「新見荘編年目録　暫定版」である。研究フィールドとした備中国新見荘は中世文書の関係資料が豊富で、当科研を開始する以前には多くの無年号文書があり、それらが未整理の状況であった。今回の 4 年間の調査により、年次比定が大幅に進み、2013 年 6 月 17 日のシンポジウム「日本中世の荘園空間と水利」において、「新見荘関連史料 2013 年度編年目録」として紙媒体で公開した。その結果、年次比定はさらに進み、12 月に暫定版を関係者に配布した。折を見てこれを web 公開することとしたい。今一つの課題は、ＧＩＳソフトによる成果の web 化である。今回の調査において、岡山県高梁法務局に残る明治期の土地台帳から荘域内において計 7 千の地名を検出でき、科研のメンバーの間で共有することができ、2009 年度提出した科研申請書に掲げた「多層荘園記録システム」は、2014 年段階でひとまずの完成を見た。このシステムを基盤として目標とした多くの研究成果を論文として発信することができたが、ＧＩＳの web 化には至らなかった。

この科研の期間（2010 年度～2013 年度）においても、地理情報の web 化は急速な進展を見せ、特に国土地理院では、統合的な地図と空中写真の web 化が進み、「地理院地図」の活用が広範ものとなった。20 世紀に地理研究で大きな役割を果たした 2 万 5 千分ノ１地形図ももはや過去のものとなった。「多層荘園記録システム」では、主に地名と水路および石造物の所在地に関してその現況を記録し得た。これらにおいても従来の荘園研究の水準を大幅に引き上げるものとなったが、まだ研究成果の一部を GIS に載せたにすぎない。今後。さらに、調査成果を整理し、多年にわたる水田開発の状況、耕地の変遷、山林と畑地・水田との関連などの動態的な復原を進め、それらを web 公開することを目標としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１０件）

①伊藤俊一、応永～寛正年間の水干害と荘園制、中世荘園の環境・構造と地域社会、査読有、１巻、2014、3-31

②川戸貴史、新見荘における代銭納の普及過程、
中世荘園の環境・構造と地域社会、査読有、１巻、2014、32-54

③酒井紀美、中世の在地社会と徳政、中世荘園の環境・構造と地域社会、査読有、1 巻、2014、336-358

④似鳥雄一、下地中分と荘園経営－備中国新見荘を中心に－、歴史学研究、917 号、2014、1-17

⑤海老澤衷、中世における水田開発と鉄生産－備中国新見荘の場合－、水の中世、査読無、1 巻、2013、39-70

⑥辰田芳雄、新見荘の半済、岡山朝日研究紀要、34、査読無、2013、11-37

⑦清水亮、南北朝期～戦国期の荘園、荘園史研究ハンドブックＩ、査読無、2013、154-190

⑧井上聡、日本史史料読解支援のための候補文字検索、じんもんこん 2011No.8、査読有、2011、43-50

⑨清水克行、新見荘祐清殺害事件の真相、東寺文書と中世の諸相 1、査読無、273-297

⑩高橋敏子、「東寺長者補任」の類型とその性格、東寺文書と中世の諸相 1、査読無、2011、543-599
⑪高橋傑、文永期の新見荘検注帳関連帳簿について、鎌倉遺文研究 28、査読有、2011、76-85

〔学会発表〕（計５件）

①高橋敏子、中世百姓の身分意識、シンポジウム「中世村落の総合的復原研究―備中国新見荘の歴史と水利―」、2013 年 7 月 13 日、早稲田大学小野記念講堂
②井上聡、荘園調査成果の共有をめざして－多層レイヤーの汎用化－、2013 年 7 月 13 日、早稲田大学小野記念講堂
③海老澤衷、多層荘園記録システムにおける水利と地名、シンポジウム「日本中世の荘園空間と水利」、2013 年 6 月 17 日、早稲田大学 33 号館第 10 会議室
④海老澤衷、『鎌倉遺文』未収録の荘園帳簿について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012 年 9 月 18 日、東京大学史料編纂所大会議室
⑤海老澤衷、中世における水田開発と鉄生産－備中国新見荘の場合－、第 10 回考古学と中世史シンポジウム「水の中世－開発・生活・災害－」、2012 年 7 月 7 日、帝京大学文化財研究所

〔図書〕（計２件）
①海老澤衷・高橋敏子編、勉誠出版、中世荘園の環境・構造と地域社会、2014、367

②酒井紀美著、戦乱の中の情報伝達－使者がつなぐ中世京都と在地－、吉川弘文館、2014、232

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ
http://www.f.waseda.jp/ebisawa/ebisawa/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
海老澤衷　（EBISAWA, Tadashi）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：６０１９４０１５

(2)研究分担者
高橋敏子　（TAKAHASHI, Toshiko）
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：８０１５１５２０

井上聡　（INOUE, Satoshi）
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：２０３０２６５６

清水克行　（SHIMIZU, Katuyuki）
明治大学・商学部・教授
研究者番号 ：４０４４０１３５

清水亮　（SIMIZU, RYOU）
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号：９０４５１７３１

(3)連携研究者
紙屋敦之　（KAMIYA, Nobuyuki）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：００１９４９７８

新川登亀男（Shinkawa, Tokio）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号:５００９４０６６

久保健一郎（KUBO, Kenitirou）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：６０２５７２３５

鶴見太郎　（TURUMI, Tarou）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：８０２８８６９６

黒田智　（KURODA, Satoshi）
金沢大学・教育学部・准教授
研究者番号：７０４６８８７５

高橋傑　（TAKAHASHI, Suguru）
慶応普通部・教諭
研究者番号：２０５７３０８３

伊藤俊一　（ITOU, Toshikazu）
名城大学・人間学部・教授
研究者番号：５０２４７６８１

川戸貴史　（KAWATO, Takashi）
千葉経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：２０４５６２８９

酒井紀美　（SAKAI, Kimi）
元茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：６０４００５９５

高木徳郎　（TAKAGI, Tokurou）
早稲田大学・教育総合科学学術院・准教授
研究者番号：００３１８７３４

似鳥雄一　（NITADORI, Yuichi）
早稲田大学・文学学術院・助手
研究者番号：３０７１９５２１